

送 辞

木々の芽吹きに春を感じる季節となりました。三年生の先輩方、御卒業おめでとうございます。在校生一同心よりお祝い申し上げます。これまで私たちは、行事や部活動に熱心に取り組む先輩方の背中から、たくさんのお話を学ばせていただきました。

大文化祭では、先輩方が妥協を許さず作業をする姿や、企画について何度も議論を重ねる姿が印象に残っています。そうした先輩方の展示やパフォーマンスは当日、見る者全てを魅了し、私たちは先輩方との差を痛感させられました。さらに私たちが行き詰まってしまった時には、具体的なアドバイスや優しい言葉をかけてくださいました。仲間と切磋琢磨して、全員で成長していこうとする先輩方を見て、私たちは身が引き締まる思いでした。

雨天となってしまうた大運動会。ぬかるんだグラウンド、綱引きの二回戦が中止となり、約三ヶ月かけて、ブロック生みんなで作った第二バックを、雨で降ろすことができない、といった本当に悔しい状況がありました。しかし、その状況の中でも、最善を尽くそうとする先輩方の姿を私は決して忘れません。激しさを増す雨の中、競技を行うかどうかについて運営とブロックが本音をぶつけあう姿、落ち込む様子も見せず、笑顔で「切り替えよう。」声をかけ合う姿、飛び跳ねる泥も気にせず、がむしゃらに走る姿、ずぶぬれになりながらも戦う仲間を声を囁らして応援する姿。私たちは、先輩方の気迫にどれほど力をももらったことでしょうか。閉会式で、涙で顔を濡らして、きつく抱き合い、館歌を熱唱する先輩方は本当に格好良く、スローガンの「強演」の通り、強い運動会とはこういうことなのだと思えるほどの感動を受けました。

先輩方と共有した時間を振り返ってみると、その力強い声とともに熱い語りが思い出されます。先輩方の周りを引き込んでいく語りは、私たちにとって貴重な財産となりました。修猷の原動力である語りの力、先輩方の存在の大きさを改めて実感しました。

これからは、先輩方に代わって、私たち一人一人が強い存在となり、修猷を引き継いでいかなければなりません。今までたくさんのお話を教えていただいた分、私たちは日々向上し、恩返しをしていくつもりです。

最後になりましたが、先輩方、今まで本当にありがとうございました。先輩方はこれから、それぞれの猷を歩んでいかれます。困難なこともあるかもしれませんが、ここ修猷館での三年間の経験を糧に、挑戦を続けてください。先輩方がそれぞれの六光星に向かって、猷を歩み、ご活躍されることを心より願って、送辞といたします。

平成三十一年三月二日

在校生代表 原田 侑佳